まち・ひと・しごと新聞

第４号
発行
三島信用金庫
駿東郡長泉下土狩96-3
055-973-5730
制作
県立韮山高等学校写真報道部
日本大学三島高等学校新聞部
県立熱海高等学校報道部
県立沼津東高等学校新聞部
協力
静岡県東部地域局

運輸業　航空機産業

世界に誇れる安全を

株式会社エステックでは航空機のエンジン部品の製造業、伊豆箱根鉄道株式会社では運輸業を通して、世界や地域に安全性の高い製品や運輸サービスを提供している。

国際認証取得の航空宇宙産業

（株）エステック　鈴木誠一社長

株式会社エステックは、航空機のエンジン部品や建設機械などの高難度の部品を製造している。取得が難しいと言われている航空宇宙産業の国際認証を取得している県内唯一の中小企業で、世界トップレベルの技術力を有している。

▲真剣な眼差しで語る株式会社エステック　鈴木誠一社長

鈴木社長から自動車部品と航空機部品の違いを聞いた。例えば部品数は、自動車の場合約２万パーツだが、航空機の場合は約３００万パーツでおよそ１５０倍だという。また航空機部品は溶接せず、１つの金属から部品を削り出すため加工が難しい。

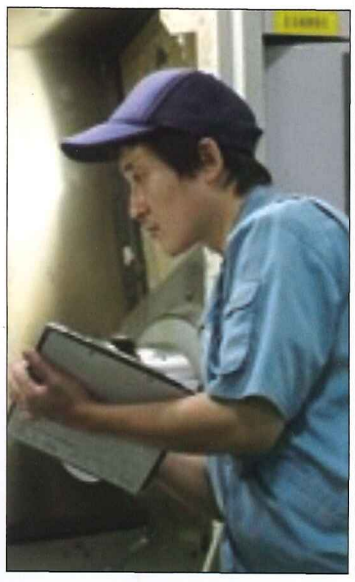
繊細な航空機部品

また航空機の部品は、自動車の部品と違って角の丸みにも寸法が決められている。エステックでは光学顕微鏡を用いて寸法を測定したり、蛍光性の液体を用いた特殊な検査を行ったりしている。

繊細な航空機部品を製造するために、徹底した品質管理や設備の点検が欠かせないという。

「困った時のエステック」

航空機の部品は、部品数が多かったり、すべての部品に寸法が決まっていたりするので製造することがとても難しいです。私たちはその航空機産業に30年以上のキャリアがあり、県内中小企業で唯一「Ｎａｄｃａｐ」という国際認証を有しており、他社からも一目置かれる存在です。大手企業でも音を上げてしまった、難しいレベルの部品も基本引き受けるスタンスから「困った時のエステック」といわれています。大手企業に勝てる技術が都心ではなく、県東部にあることは、とても魅力的なことだと思います。



▲作業前の設備点検は欠かせない

強みは高い技術力

私たちの強みは高い技術力があるため、全工程が自分たちでできることです。ある特定の部品だけでなく、様々な部品と関わり常に一人ひとりが責任を持つようにしています。そのため、部品の情報共有や、部署の隔てのないコミュニケーションが欠かせません。技術力の向上には独自で製造したり、工夫を凝らすなどの努力を続けたりすることが大事だと考えているからです。また、常に素直でいることを心がけています。仲間のアドバイスを素直に聞き入れる人ほど、よく伸びます。

地元で経験活かす

学生の時は勉強したり、留学などの経験をしたりすることが一番大事なことだと思います。そして将来、学生時代に得たそれらの知識や経験を繋げて役立たせるかが重要です。若い時に都会で様々な経験をして、後に地元に帰ってきて、その経験を活かしてほしいです。また、途中で「限界だ」と感じることがあると思いますが、そこで諦めず努力を続けてください。限界を決めずにチャレンジし続けてください。

伊豆箱根鉄道（株）

高杉さん　芹澤さん

伊豆箱根鉄道株式会社は、運輸業や観光業など、幅広い分野で地域の活性化やＰＲに貢献している。

「安心安全な地域の足に」

安全を第一に

運輸業は電車を止めないことを大切にしています。一刻も早く安心安全な地域の足になりたいという思いです。また、事業は安全の上に成り立つという考えから、運輸安全推進委員会という安全に関する会議を毎月行っています。

沿線市町と連携した駿豆線沿線地域活性化協議会も活動中で、観光・防犯・防災の３つの部会から沿線地域の活性化を図ります。中でも防災部会は、実際に電車を緊急停止させる訓練を年に１回実施して安全性のアピールも行います。

地域と連携を

昭和33年の狩野川台風で甚大な被害を受けましたが、12日間で復旧させることができました。この短期間での復旧は、地域の方の協力がなければ考えられないことでした。地域社会の発展に貢献することが目標なので、これからも一緒に歩んでいきたいです。

また伊豆半島の観光資源には、大きなチャンスがあります。伊豆・三津シーパラダイスなどの観光施設だけでアピールせず、ジオパークや韮山反射炉などの観光地が近辺にあると伝えることで、お客様の周遊促進を狙っています。これからも企業や地域との連携を強化し、より多くの方に伊豆半島に来ていただきたいです。

▲高杉さん（左）と芹澤さん（右）と記者

編集後記

取材をさせていただいた企業の方々をはじめ、三島信用金庫の担当者の方との協力を得て、紙面製作ができました。この場をお借りして、お礼申し上げます。まだまだ未熟な点も多いですが、地元企業の様々な魅力を知っていただけたら幸いです。

【一面担当】
県立韮山高校
写真報道部

韮山高校写真報道部員